

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	熊本大学
整理番号	B10
構 想 名	地域と世界をつなぐグローバル大学K u m a m o t o

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） B	事業目的はある程度達成されているが、今後の発展のためには努力が必要と判断される。
（コメント） 事業期間全体において、「①国際通用性の高い学部教育のグローバル化」、「②外国人留学生に対する多様な受入れ体制の提供と Late Specialization の促進」、「③世界最先端の研究を支える大学院教育のグローバル化と先鋭化」、「④世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供」の4つを中心的施策として実施されたものとなっている。 4つの中心的施策の具体的な事業展開にあたっては、海外の学事暦に対応できる「熊大FleCS」（4ターム＋夏季1ターム）という新しい教育システムの全学導入、グローバルリーダーコース（GLC）設置による学士課程教育のグローバル化推進、日本人学生と外国人学生が共修できる環境整備のための教養教育科目の全学展開、各種英語で実施するプログラムの整備や奨学金等の支援充実による受入れ体制の改革、ダブルディグリープログラムの大幅増加等による国際連携教育の拡充、地理的特性を生かした周辺地域への中・高校生等への国際交流機会提供等による地域づくりなど、当初の目標に沿って多様な取組みがなされたことは評価したい。 一方、本構想で掲げていた、「真のグローバル大学への変貌」への兆しは見られるものの、「世界トップランクの大学と伍する研究拠点大学としての位置を確立する」ことまでは繋がらなかったことは残念である。本事業の成果指標の一部項目においてはコロナ禍の影響により伸び悩んだものと考えられるが、設定した目標値を最終年度の実績値で満たしていない項目が全体的に散見されるため、事業としては終了したが、未達項目の要因分析をしっかりと行いその改善に向け、大学全体として今後も継続した取組みを進めていただくことを期待したい。また、世界最大の半導体メーカーの熊本進出に伴う地域の急速なグローバル化という外部要因も十分に生かしながら、今後の国際化や目標とする大学像の位置確立に向けて邁進していただきたい。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	